

令和8年産 麦作情報総括号

令和8年8月21日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>



技術情報はここから

気象経過と生育概況

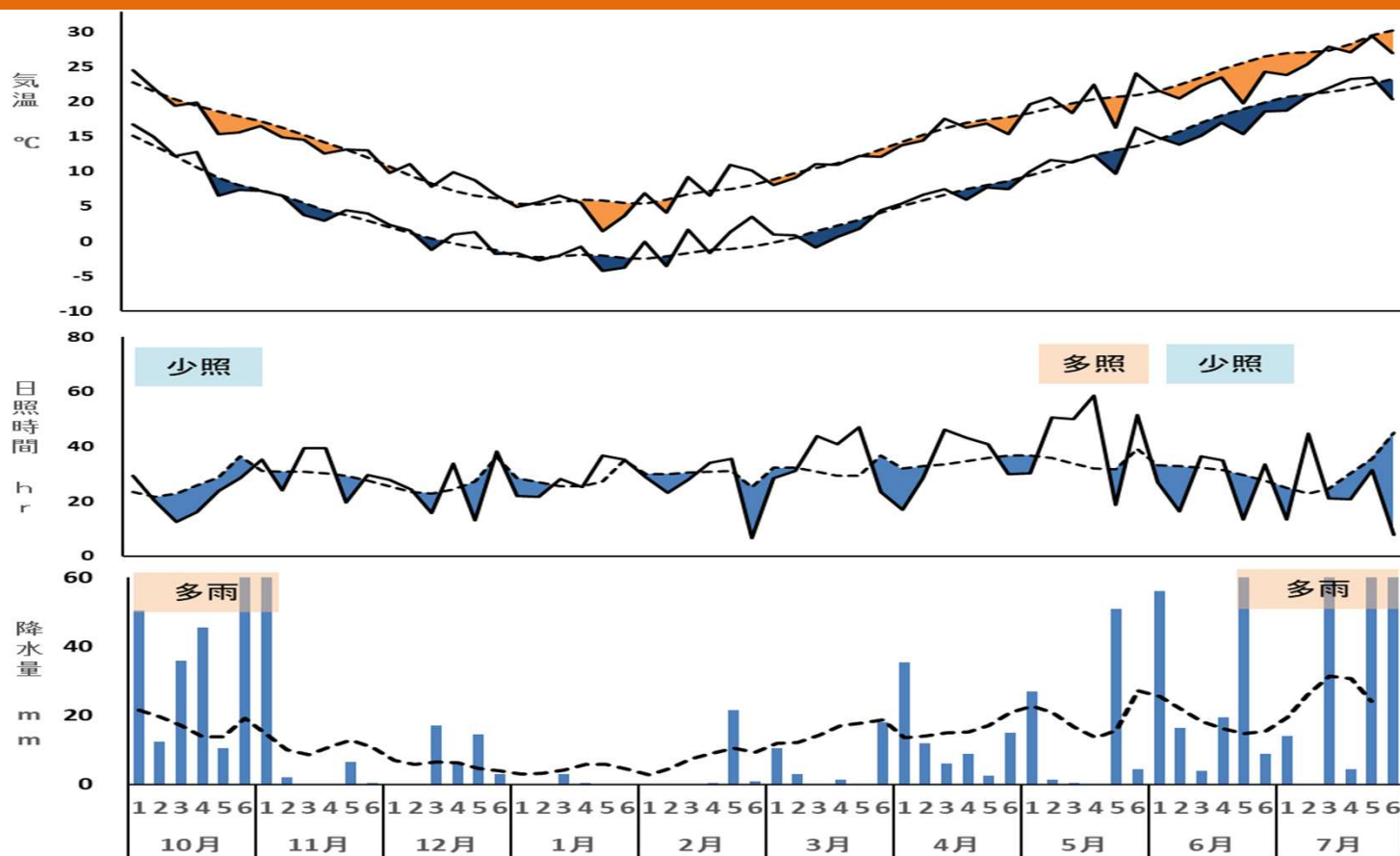


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)
※平年値は直近5か年の移動平均

○越冬前(10～12月)

10月は気温が平年並で、日照時間が平年より少なく、降水量は平年よりかなり多くなりました。11月は気温が平年並で、日照時間が多く、降水量は第2半句以降は少雨でした。12月は気温がやや高く、日照時間が平年並、降水量は平年並でした。

→10月から11月上旬の降雨の影響で播種時期は遅くなりました。

○冬期間(1～2月)

1月は平均気温が平年並からやや低く経過し、降水量は平年比9%とかなり少なく、日照時間は平年並でした。2月は平均気温が平年より高く、日照時間は少なく、降水量は平年並で推移しました。

→草丈、茎数ともに平年を下回って推移しました。

○越冬後～成熟期(3～6月)

平均気温は、減数分裂期(以下、減分期)から出穂期にかけての4月後半はやや低く推移し、成熟期直前の5月下旬では高温となりました。日照時間は、減分期から出穂期、成熟期にかけて概ね多照となりました。降水量は減分期から出穂期にかけて平年並で推移し、成熟期以降は大幅な多雨となりました。

→気温は高めで推移しましたが、播種の遅れが影響し、生育量・子実数は平年を下回りました。

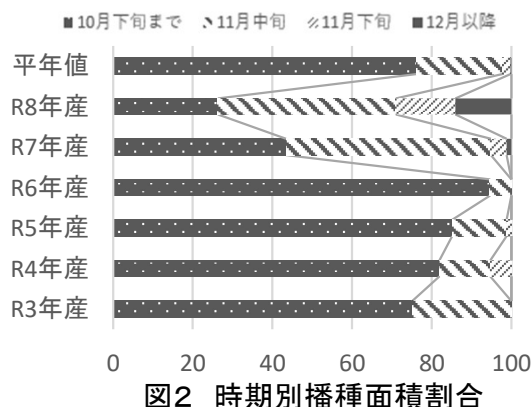


図2 時期別播種面積割合

R8年産は10月中に播種できたほ場は25%程度

生育ステージ

○ 播種日は10月から11月上旬の降水量が多かったため、全般に平年より遅くなりました。

○ 播種が平年よりも一か月以上遅かったシュンライは、その後の生育ステージも平年より大幅に遅れましたが、生育が進むにつれ平年差が縮まり、出穂期で14日、成熟期で6日の遅れとなりました。10月中に播種したミノリムギ・シラネコムギのほ場は、減数分裂期まで概ね平年並で推移し、出穂期は2～4日遅く、成熟期は平年並から4日早くなりました。

表1 生育調査ほの生育ステージ

	播種日	幼形期	減分期	出穂期	成熟期
シュンライ (給人町)	11/18 +37日	3/17 +24日	4/28 +16日	5/05 +14日	6/09 +6日
ミノリムギ (高須賀)	10/25 +7日	3/15 -2日	4/20 +1日	5/02 +4日	6/09 0日
ホワイトファイバー (真野)	10/30 -	3/13 -	4/14 -	4/24 -	6/02 -
ホワイトファイバー (大曲)	11/11 -	3/17 -	4/15 -	4/25 -	6/02 -
シラネコムギ (太田)	10/31 +4日	4/01 -2日	4/26 +1日	5/07 +2日	6/18 -5日

※赤字は平年よりも早く、黒字は平年よりも遅い又は平年並であることを示す。

※平年値は過去5か年の平均。

※真野と大曲のホワイトファイバーについてはR8年産から調査開始のため、平年差は無し。

生育調査ほの生育経過

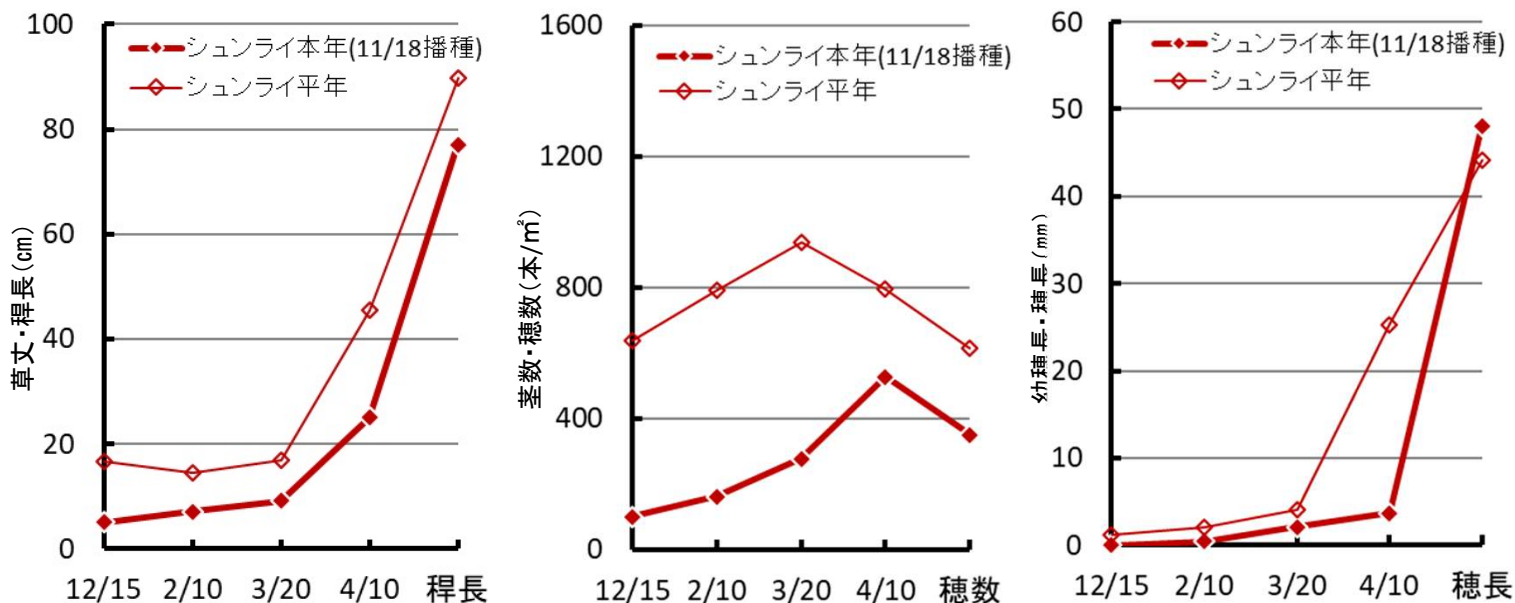


図3 草丈・稈長(左)、茎数・穂数(中)及び幼穂長・穂長(右)の推移(シュンライ)

※ 本年の播種日：11/18(平年差+37日)

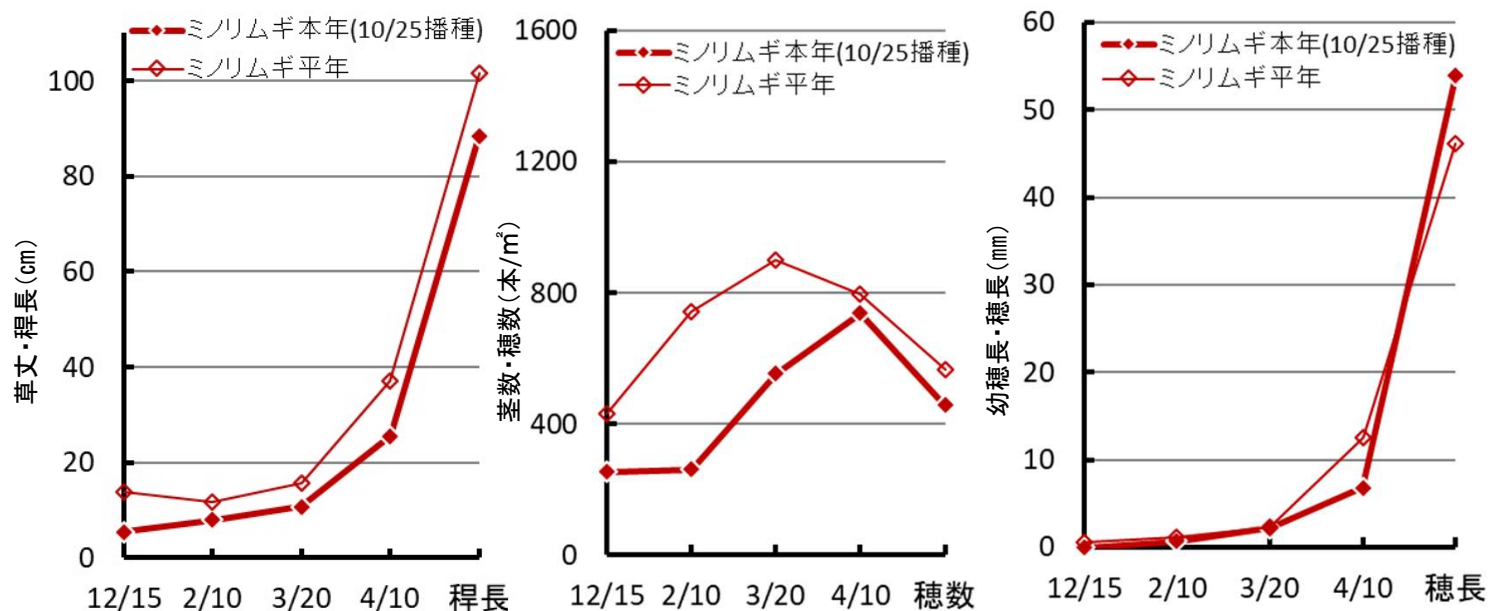


図4 草丈・稈長(左)、茎数・穂数(中)及び幼穂長・穂長(右)の推移(ミノリムギ)
※本年播種日: 10/25(平年差+7日)

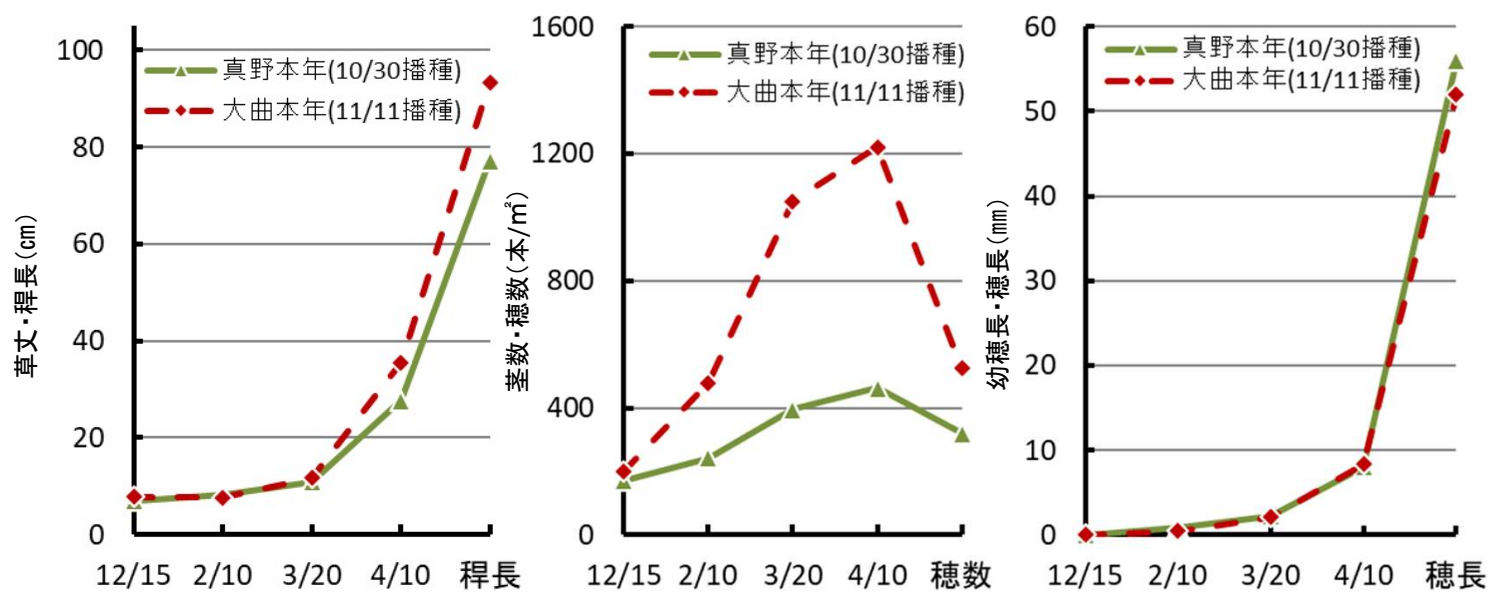


図5 草丈・稈長(左)、茎数・穂数(中)及び幼穂長・穂長(右)の推移(ホワイトファイバー)
※真野本年播種日: 10/30、大曲本年播種日: 11/11

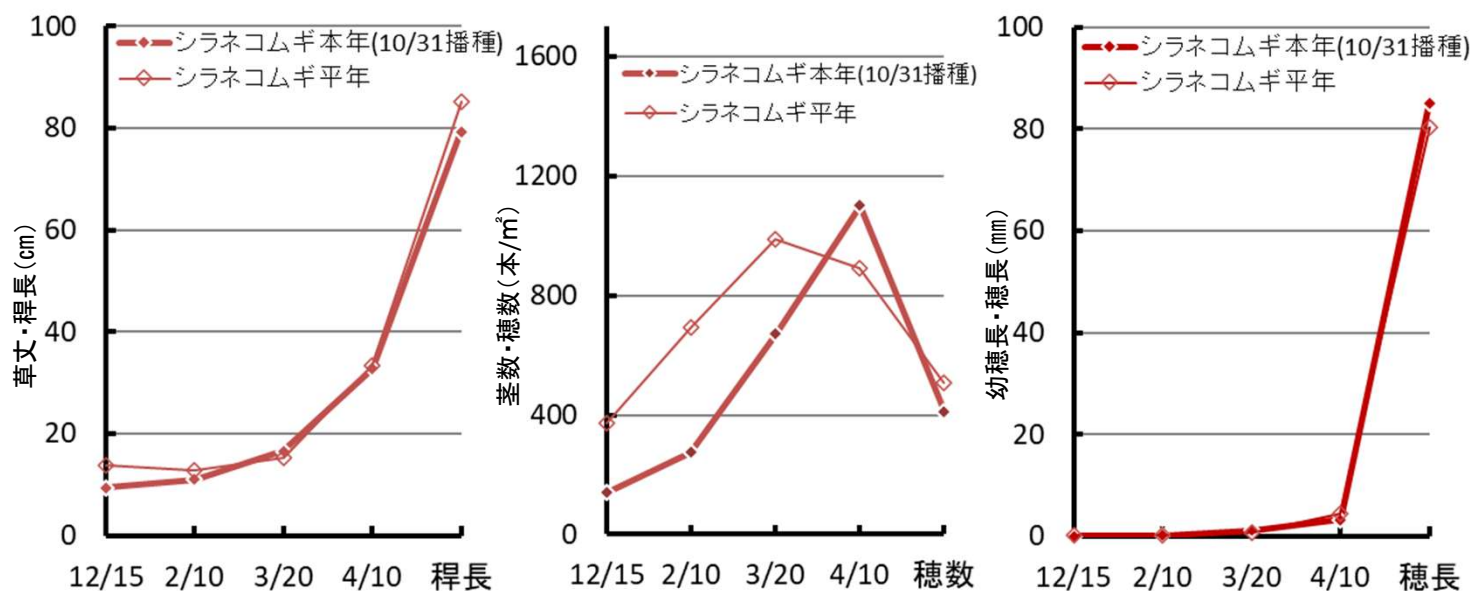


図6 草丈・稈長(左)、茎数・穂数(中)及び幼穂長・穂長(右)の推移(シラネコムギ)
※本年播種日: 10/31播種(平年差+4日)

収量及び品質

- ◆ 生育調査ほの収量(子実重:ふるい目2.0mm)は、シュンライで平年より10%程度少なく、ミノリムギ・シラネコムギで平年並となりました(表2)。
- ◆ シュンライの収量低下の要因として、播種が遅れたことで生育が遅れ、穂数が平年比57%と大きく下回ったことが考えられます。穂数が少なかったため、1穂あたりに栄養が集中し、穂長や千粒重、容積重は平年を上回りましたが、減収分を補填するまでには及びませんでした。

表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/㎡)	全重 (g/㎡)	わら重 (g/㎡)
					(粒/穂)	(千粒/㎡)					
シュンライ (給人町)	本年	77.1	4.8	350	43.8	15.3	41.5	713	636	1,390	600
	前年比	82%	114%	66%	115%	75%	112%	106%	85%	96%	111%
	平年比	86%	109%	57%	136%	80%	114%	105%	91%	98%	94%
ミノリムギ (高須賀)	本年	88.3	5.4	458	44.4	20.4	36.3	709	739	1,630	600
	前年比	81%	117%	67%	119%	80%	118%	109%	95%	93%	83%
	平年比	87%	117%	81%	123%	98%	109%	106%	102%	109%	93%
ホワイト ファイバー (真野)	本年	77.2	5.6	320	37.6	12.0	37.8	657	455	1,080	430
	前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホワイト ファイバー (大曲)	本年	93.4	5.2	525	39.8	20.9	38.1	700	796	1,030	430
	前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シラネ コムギ (太田)	本年	79	8.5	412	31.6	13.0	39.1	825	508	1,470	380
	前年比	89%	108%	90%	123%	112%	101%	105%	113%	113%	73%
	平年比	93%	106%	81%	125%	103%	99%	102%	102%	112%	64%

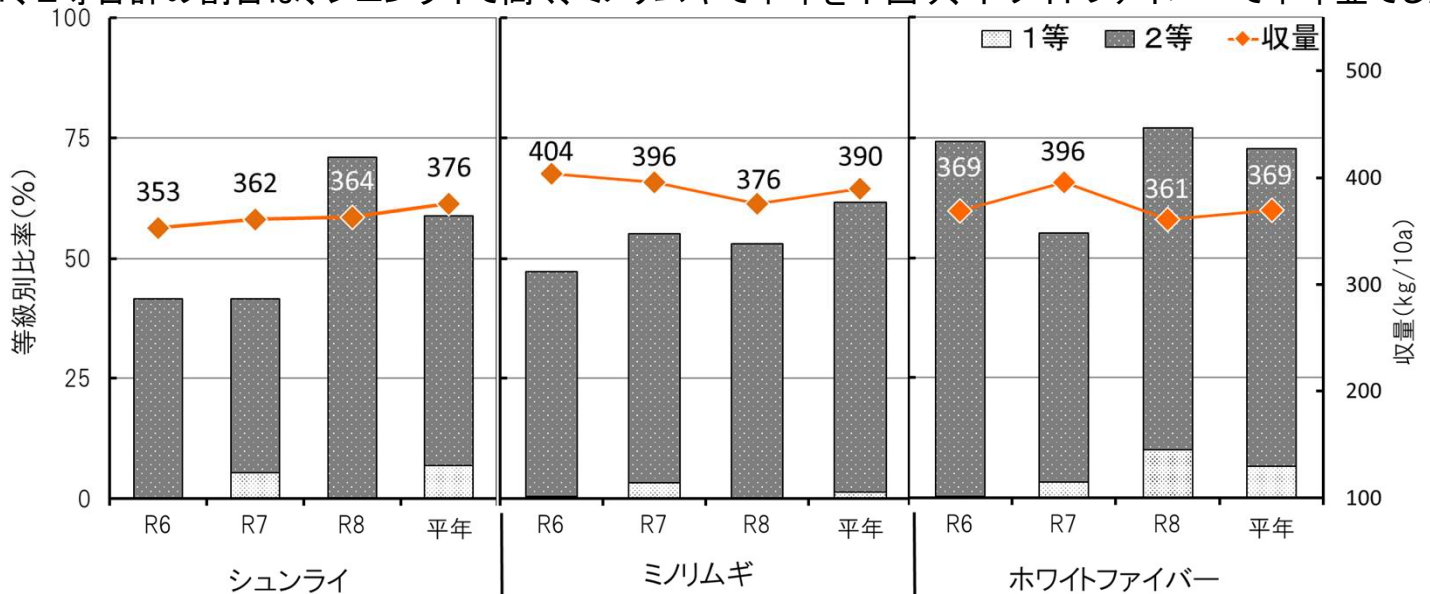
※赤字は平年よりも早く、黒字は平年よりも遅い又は平年並であることを示す。

※平年値は過去5か年の平均。

※真野と大曲のホワイトファイバーについてはR8年産から調査開始のため、平年差は無し。

【大麦】

- ・ 収量はシュンライ・ミノリムギ・ホワイトファイバー全てで平年並でした。
- ・ 1、2等合計の割合は、シュンライで高く、ミノリムギで平年を下回り、ホワイトファイバーで平年並でした。



収量 並 (平年比 97%) 並 (平年比 96%) 並 (平年比 98%)
 1・2等割合 高い(平年差 12) やや低い(平年差 -9) 並 (平年差 4)

図7 石巻管内の大麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき米穀課調査)

【小麦】

- ・収量はシラネコムギ・夏黄金とも平年を下回りました。
- ・1、2等の割合は、シラネコムギで並、夏黄金で平年を下回りました。

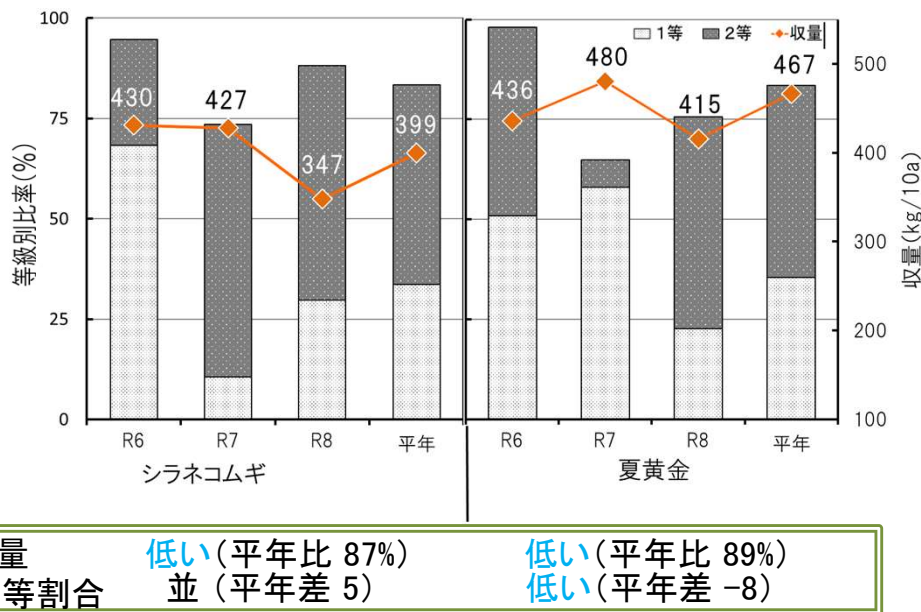


図8 石巻管内の小麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき米穀課調査)

令和9年産に向けた栽培管理のポイント

令和8年産の課題: 播種の遅れ

○ 排水対策

- ◆ 明きょ・暗きょの排水状況を確認し、手直しをしましょう

出芽～生育初期の麦類は湿害に弱いので、融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です。出芽後期から分けつ期にかけて湿害を受けると、根の伸長抑制による浅根や分けつの減少、葉の黄化が起こり、生育不良になります。

湿害対策は、作土層に降雨等による水分が停滞しないようにすることが重要です。播種前に、弾丸暗きょや明きょを本暗きょ等と連結し、過剰な水分がほ場外に排出される経路を繋いでおきましょう。また、生育期間中には、暗きょが閉じているほ場がないか、再点検するとともに、明きょに停滞水が溜まっている場合は手直しを行いましょう。



図11 停滞水が溜まる明渠
(落水口前に土が盛り上がっている)

○ 有機物施用と土づくり

- ◆ 畑地、あるいは水稻－麦－大豆などの畑作を含むローテーションが長年行われた土壌では、有機物の分解が水田に比べ急速に進み、地力は水稻連作よりも早く消耗していきます。
- ◆ 土壌有機物が減少すると、地力低下や土壌物理性の悪化につながるため、毎年、堆肥等を投入して地力を維持しましょう。
- ◆ 作業時間が確保できず、作付け前の堆肥散布が難しい場合は、ローテーションのなかで散布可能なタイミングを見付けて行いましょう。
- ◆ 稲わらや籾殻主体の堆肥を2t/10a以内の施用を基本とし、たい肥センター製造の家畜ふん堆肥等を施用する場合は、牛ふん堆肥(窒素含有率1%程度)で1t/10a以内、豚ふん堆肥(窒素含有率2%程度)で500kg/10a以内とします。

○ 適期播種

- ◆ 播種が遅れると、出芽までに時間がかかるため、年内に確保される莖数が少なくなり、遅発分げつが発生し、出穂・成熟がばらつくなど、収量・品質が低下します(図9、図10)。また、出穂期以降に強い高温に遭遇した場合、急激に生育ステージが進み登熟期間が短く、登熟不良が生じ未熟粒や空洞麦などの品質低下の要因となります。できるだけ適期に播種しましょう。

【播種適期】 10月5日～20日

【播種量】 大麦 8～10kg/10a
小麦 9～11kg/10a

※播種が遅れる場合は、
播種量を多くしましょう

【播種深】 約3cm



図9 播種の遅れによる弊害
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針)

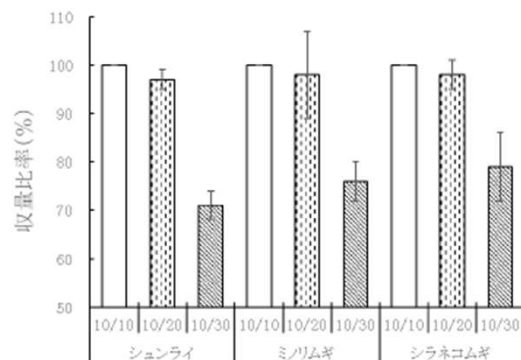


図10 播種期と収量の関係
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針)

- ◆ 播種が深いと出芽不良や分げつの発生抑制、播種が浅いと過乾燥条件下での出芽不良や浅根化による凍上害や倒伏の要因となりますので、播種深は3cm程度とします。播種深は土壌タイプや土壌水分、碎土率などによりばらつくため、ほ場毎に確認しましょう。

○ 麦踏み

麦踏みの効果

- 【株の踏圧】→ 分げつ発生促進、深根化・倒伏軽減、生育の均一化
- 【土壌の踏圧】→ 凍上害(霜や凍結による麦の持ち上がり)や干害の防止

- ◆ 麦踏みの時期と回数の目安は、3～4葉期(年内が目安)に1回 + 越冬後茎立ちまで(大麦:3月上旬頃、小麦:3月下旬頃)に1～2回です。暖冬年は生育が早まるため、2月上旬に幼形期(幼穂長2～3mm)を迎えることがあり、早い時期に茎立ちする場合があります。気象経過に注意して生育を観察してください。晩限は茎立ち前(幼穂長2mm程度)までで、晩限以降の麦踏みは麦の生育に有害なため注意してください。

◆ 麦踏みの注意点

「生育が遅れている(3葉期未満)」「生育不良」「ほ場が湿っている」際には、無理に麦踏みを実施すると生育抑制効果や土壌の締固めのために生育に悪影響を及ぼす場合があります。

麦の生育とほ場の状態を見ながら実施しましょう。